

製品名: p21 (リン酸化 Thr145) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05145**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用**希釈倍率** WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000**分子量****抗原情報**

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | CDKN1A |
| 別名 | CDKN1A; CAP20; CDKN1; CIP1; MDA6; PIC1; SDI1; WAF1; Cyclin-dependent kinase inhibitor 1; CDK-interacting protein 1; Melanoma differentiation-associated protein 6; MDA-6; p21 |
| 遺伝子 ID | 1026.0 |
| SwissProt ID | P38936 |
| 免疫原 | 抗血清は、ヒト p21 Cip1 の Thr145 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160 |

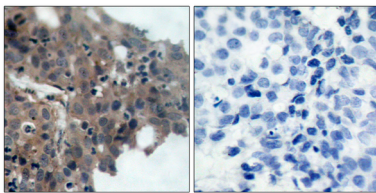
背景

この遺伝子は、強力なサイクリン依存性キナーゼ阻害剤をコードしています。コードされているタンパク質は、サイクリン-サイクリン依存性キナーゼ 2 または-サイクリン依存性キナーゼ 4 複合体に結合してその活性を阻害し、細胞周期の G1 期進行の調節因子として機能します。この遺伝子の発現は腫瘍抑制タンパク質 p53 によって厳密に制御されており、このタンパク質は、様々なストレス刺激に応答して p53 依存性細胞周期 G1 期停止を媒介します。このタンパク質は、DNA ポリメラーゼ補助因子である増殖細胞核抗原と相互作用し、S 期 DNA 複製および DNA 損傷修復において調節的な役割を果たします。このタンパク質は、CASP3 様カスパーゼによって特異的に切断され、サイクリン依存性キナーゼ 2 の劇的な活性化につながる事が報告されており、カスパーゼ活性化後のアポトーシスの実行に重要な役割を果たす可能性があります。機能不全マウス: p53 が DNA 損傷に対する細胞増殖抑制剤としての役割を媒介する重要な中間体である可能性がある。サイクリン依存性キナーゼに結合してその活性を阻害し、重要なサイクリン依存性キナーゼ基質のリン酸化を阻害し、細胞周期の進行を阻害する。誘導: p53、メゼレイン (抗白血病化合物)、およびインターフェロン β によって誘導される。PTM: Akt による Thr-145 のリン酸化、または PKC による Ser-146 のリン酸化は、PCNA への結合を阻害する。類似性: CDI ファミリーに属する。組織特異性: 成人ヒトのあらゆる組織で発現するが、脳ではその 5 分の 1 のレベルで観察される。、

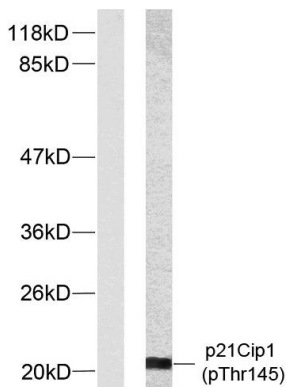
研究分野

幹細胞経路; ErbB/HER; PI3K/Akt; AMPK; 細胞周期 G1S; 細胞周期 G2M_DNA; タンパク質アセチル化

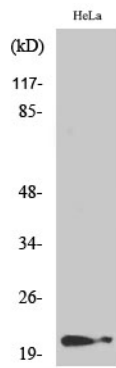
画像データ



p21 Cip1 (リン酸化 Thr145) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 処理した HeLa 細胞ライセートの p21 Cip1 (リン酸化 Thr145) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。左のレーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 p21 (T145) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析